

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

海南市教育委員会

1 調査結果の公表にあたって

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に実施しています。しかし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。本市としましては、本調査の結果から得られた全国の状況等を参考にしながら、今後の教育施策を講じるための一つの指標と捉えるとともに、各学校における学習指導の充実・改善、児童生徒一人一人の学習状況の改善等につなげてまいります。

2 調査の実施状況

(1) 調査実施日 令和5年4月18日（火）

(2) 調査の対象学年（本市での実施学校・児童生徒数）

- ・小学校第6学年（12校・341人）
- ・中学校第3学年（7校・335人）

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

小学校調査 ・ ・ ・ 国語、算数

中学校調査 ・ ・ ・ 国語、数学、英語

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・ 学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する内容

(4) その他

① 本調査は、対象となる学年が限られており、本年度は、実施教科が小学6年生では国語、算、中学3年生では国語、数学、英語の3教科であること、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要です。また、今回示した数値は調査結果のすべてを表すものではありません。

② 今後の指導に生かすため、市全体の結果から見たそれぞれの教科や質問紙の概要、今後の取組についてなどを併せて記載しています。

3 教科に関する調査の結果

【小学校】

(1) 平均正答率 () 内は全国比

	国語	算数
海南市	71.4 (+4.2)	66.0 (+3.5)
和歌山県 (公立)	68	63
全国 (公立)	67.2	62.5

※ 自治体別の平均正答率は小数点以下を四捨五入し、整数値で示されていますが、海南市の結果は各設問の平均正答率をもとに計算し、独自に小数点まで算出しています。

(2) 各教科の概要

① 国語

i) 学習指導要領の領域別正答率

	国語		
	海南市	和歌山県	全国
話すこと・聞くこと	79.7	75.7	72.6
書くこと	31.9	26.4	26.7
読むこと	74.5	71.5	71.2
言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	70.3	69.0
情報の扱い方に関する事項	68.1	64.0	63.4

ii) 全国との正答率と比較した特徴

話すこと・聞くこと (全3問)

- ・平均正答率 79.7% (全国との差 +7.1%)
- ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができている。
- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができている。

書くこと (全1問)

- ・平均正答率 31.9% (全国との差 +5.2%)
- ・図表やグラフ等を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題は全国正答率よりは高いが正答率としては低い。各校における正答率の差が大きい。

読むこと (全3問)

- ・平均正答率 74.5% (全国との差 +3.3%)
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題の正答率が高い。

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全5問)

- ・平均正答率 73.6% (全国との差 +2.4%)
- ・漢字を文の中で正確に使ったり、基本的な文法の理解をしたりする問題で全国平均をやや上回っている。

情報の扱い方に関する事項 (全2問)

- ・平均正答率 68.1% (全国との差 +4.7%) 全国を上回っている。
- ・原因と結果など情報と情報との関係についてよく理解している。

② 算数

i) 学習指導要領の領域別正答率

	算数		
	海南市	和歌山県	全国
数と計算	72.7	68.0	67.3
図形	49.1	46.5	48.2
変化と関係	72.2	70.9	70.9
データの活用	70.5	66.8	65.5

ii) 全国の正答率と比較した特徴

数と計算（全6問）

- ・平均正答率 72.7%（全国との差+5.4%）
- ・四則計算や分配法則を用いる計算問題については、正答率が高かったが、筆算の各段階の商の意味を考える問題については正答率が低かった。

図形（全4問）

- ・平均正答率 49.1%（全国との差 +0.9%）
- ・4問中3問が全国を上回っているが、どの問題も全国平均とほぼ同等であった。
- ・台形や正方形、正三角形等の図形の意味や性質の理解に関する問題で正答率が低い。
- ・底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

変化と関係（全4問）

- ・平均正答率 72.2%（全国との差 +1.3%）
- ・伴って変わる二つの数量については平均正答率を上回ったが、百分率で表された割合についてを問う問題では正答率が低かった。

データの活用（全3問）

- ・平均正答率 70.5%（全国との差 +5.0%）
- ・3問すべて全国を上回っている。昨年度は全国平均より低かったが今年度は向上している。
- ・複数のグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述する問題において正答率がかなり高かった。無解答率も非常に低かった。（市：7.8% 全校：13.8%）

【中学校】

(1) 平均正答率 () 内は全国比

	国語	数学	英語
海南省	75.3 (+5.5)	60.0 (+9.0)	53.5 (+7.9)
和歌山県 (公立)	67	50	44
全国 (公立)	69.8	51.0	45.6

※ 自治体別の平均正答率は小数点以下を四捨五入し、整数値で示されていますが、海南省の結果は各設問の平均正答率をもとに計算し、独自に小数点まで算出しています。

(2) 各教科の概要

① 国語

i) 学習指導要領の領域別正答率

	国語		
	海南省	和歌山県	全国
話すこと・聞くこと	85.8	78.8	82.2
書くこと	68.7	59.6	63.2
読むこと	72.0	60.3	63.7
言葉の特徴や使い方に関する事項	69.7	64.6	67.5
情報の扱い方に関する事項	70.7	61.6	63.4
我が国の言語文化に関する事項	82.2	72.2	74.7

ii) 全国の前答率と比較した特徴

話すこと・聞くこと (全3問)

- ・平均前答率 85.8% (全国との差 +3.6%)
- ・話の内容を捉えたり、聞き取ったことを基に自分の考えをまとめたりする問題で前答率が高い。

書くこと (全2問)

- ・平均前答率 68.7% (全国との差 +5.5%)
- ・根拠を明確にして書く問題で前答率が高かった。

読むこと (全4問)

- ・平均前答率 72.0% (全国との差 +8.3%)
- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題で前答率が非常に高かった。

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全2問)

- ・平均前答率 69.7% (全国との差 +2.2%)
- ・「落胆する」の意味を選ぶ問いは前答率が高い。
- ・文脈に即して漢字を正しく書き取る問題 (推し量る) については、前答率が低い。

情報の扱い方に関する事項 (全2問)

- ・平均前答率 70.7% (全国との差 +7.3%)
- ・具体と抽象など情報と情報との関係について問う問題では前答率が高い。

我が国の言語文化に関する事項（全3問）

- ・平均正答率 82.2%（全国との差 +7.5%）
- ・古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を読み取る問題で正答率が非常に高い。

② 数学

i) 学習指導要領の領域別正答率

	数学		
	海南省	和歌山県	全国
数と式	72.1	62.3	63.0
図形	42.3	31.2	33.2
関数	61.0	47.7	51.2
データの活用	55.6	49.5	48.5

ii) 全国の前答率と比較した特徴

数と式（全5問）

- ・平均正答率 72.1%（全国との差 +9.1%）
- ・文字式の計算、目的に応じた式の変形等では正答率が高い。

図形（全3問）

- ・平均正答率 42.3%（全国との差 +9.1%）
- ・三角形の合同を基にして同位角又は錯角が等しいこと等を証明する問題では正答率が高い。

関数（全4問）

- ・平均正答率 61.0%（全国との差 +9.8%）
- ・グラフや式を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題について正答率が高い。記述式の問題についても無解答率が非常に低い。

データの活用（全3問）

- ・平均正答率 55.6%（全国との差 +7.1%）
- ・データの分布の傾向等を箱ひげ図に着目して説明する問題の前答率が高い。

③ 英語

i) 学習指導要領の領域別正答率

	英語		
	海南省	和歌山県	全国
聞くこと	63.5	55.7	58.4
読むこと	60.0	49.1	51.2
書くこと	33.7	22.8	23.4

ii) 全国の前答率と比較した特徴

聞くこと（全6問）

- ・平均正答率 63.5%（全国との差 +5.1%）6問中5問で全国を上回っている。
- ・会話から情報を正確に聞き取る問題で正答率が高い。

読むこと（全6問）

- ・平均正答率 60.0%（全国との差 +8.8%）6問中6問で全国を上回っている。

- ・文と文の関係を正確に読み取ったり、短い文章の概要を捉えたりする問題で特に正答率が高い。

書くこと（全5問）

- ・平均正答率 33.7%（全国との差 +10.4%）5問中5問で全国を上回っている。
- ・全ての問題で正答率は全国の平均正答率より高いが、全体的に正答率は低い。
- ・自分の考えやまとまりのある文章を書く問題については無解答率が高い。

4 質問紙調査の結果

全国学力・学習状況調査では、教科の調査のほか、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童生徒の学校や家庭における学習状況や学校での学習の様子が分かります。

※ 表中の海南市の数字は、「当てはまる（よくある）」「どちらかといえば当てはまる（ときどきある）」等の肯定的な回答の割合

※ 比較は、海南市と全国との割合の差（海南市－全国）を表す

(1) 基本的な生活習慣

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
朝食を毎日食べていますか	94.2	+0.3	89.8	-1.4
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.6	+1.6	79.3	+1.3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	94.2	+3.7	91.2	-0.1

(2) 規範意識、自己有用感等

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
自分には、よいところがあると思いますか	86.3	+2.8	81.0	+1.0
将来の夢や目標を持っていますか	82.3	+0.8	61.0	-5.3
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.8	+1.0	89.5	+2.2
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.8	+2.8	90.8	+4.0
人が困っているときは、進んで助けていますか	95.4	+3.8	85.6	-2.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.4	+1.5	98.3	+2.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.0	+0.1	95.7	+1.1
学校に行くのは楽しいと思いますか	92.4	+6.1	88.9	+7.1
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	79.2	+2.7	79.0	+1.4

友達関係に満足していますか	94.5	+4.2	94.4	+5.7
---------------	------	------	------	------

(3) 学習習慣等

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	76.5	+5.8	56.7	+1.7
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む:1時間以上)	55.6	-1.5	59.7	-6.1
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む:1時間以上)	46.8	-5.7	54.0	-11.3
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く:30分以上)	37.6	+0.3	26.5	-1.9
あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く:101冊以上)	28.1	-5.1	28.1	-4.6
新聞を読んでいますか(週に1回以上)	12.3	-0.3	6.6	-1.5

(4) 地域や社会に関わる活動の状況

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
今住んでいる地域の行事に参加していますか	61.8	+4.0	32.4	-5.6
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	80.7	+3.9	63.9	±0

(5) ICTを活用した学習状況

質問事項	小学校		中学校	
	海南市	比較	海南市	比較
小学5年生(中学2年生)までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか(週3回以上)	72.8	+10.4	74.1	+13.0
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	96.9	+1.8	96.7	+3.4
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(30分以上)	40.4	-0.7	21.0	-10.2

5 今後の取組について

令和5年度全国学力・学習状況調査における本市の各教科の状況については、すべての教科において平均正答率が全国及び県を上回っています。特に中学校においては、大きく平均正答率を上回っており、概ね良好な結果であるとともに、学習の成果が現れていると捉えています。

令和2年度より小学校において、令和3年度からは中学校において新しい学習指導要領が全面実施となっており、今後は、子供たち一人一人に対し、基礎的・基本的な知識・技能の習得はもちろん、それらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力などや、学びに向かう力・人間性等幅広い学力を確かに身につけさせる必要があります。また、一人一台の

学習端末を有効に活用し、創意工夫ある、魅力ある授業を展開することが求められています。すべての子供が「できる・分かる」喜びを持てる学びを形成できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、授業改善に継続的に取り組むことが重要であると考えています。

そのため、全国学力・学習状況調査から得られる結果等をさらに分析し、子供たち一人一人の学習状況の把握はもとより、一層きめ細かい指導を進めていくことが大切であると捉えています。

なお、基本的な生活習慣の確立、規範意識・自己有用感の醸成、家庭学習のあり方、読書活動の推進、地域や社会参加への意識高揚などについては、家庭や地域の皆様方の御理解と御協力をいただきながら、より充実させていくことが求められます。

教育委員会としましては、今後とも、各学校の学力向上に向けた取組を支援するとともに、教育施策の充実を図り、子供たちの可能性を広げる教育の推進に努めてまいります。

また、各学校においても、自校の状況及びその分析結果、改善方策等を保護者等に説明することとしております。